

通常学級での学習や 入試等の評価につなげる方法

近藤武夫

東京大学 先端科学技術研究センター

DO-IT Japan / DO-IT Center, University of Washington

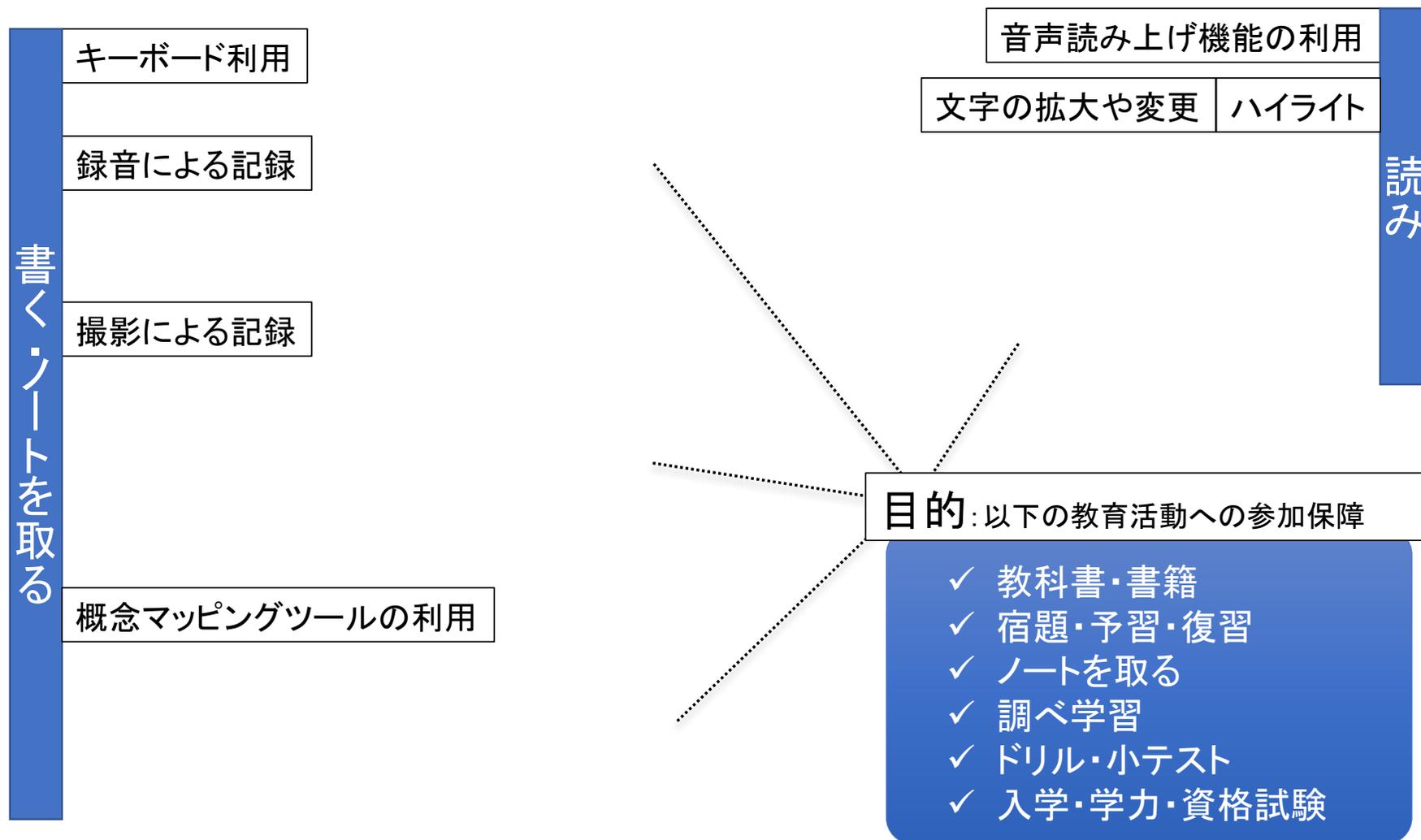
kondo@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp



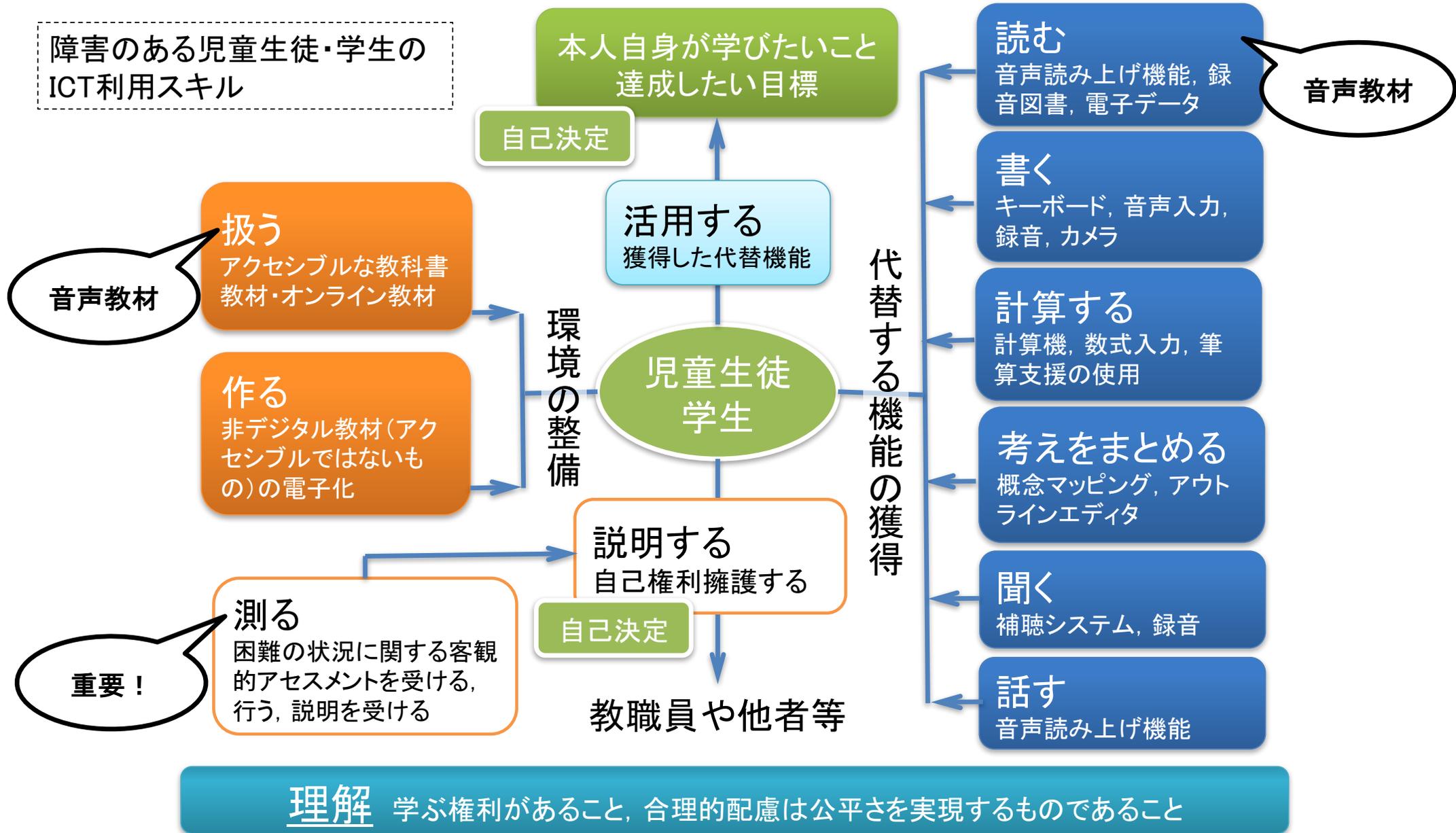
東大先端研

Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

通常学級でのICTによる読み書き支援 DO-IT Japan (<http://doit-japan.org/>)の実践例から



障害のある児童生徒・学生の
ICT利用スキル



障害者差別解消法文科省対応指針におけるICT利用

- 差別的取扱いの例
 - ○試験等において合理的配慮の提供を受けたことを理由に、当該試験等の結果を学習評価の対象から除外したり、評価において差を付けたりすること。
- 合理的配慮の例
 - ○入学試験において、本人・保護者の希望、障害の状況等を踏まえ、別室での受験、試験時間の延長、点字や拡大文字、音声読み上げ機能の使用等を許可すること。
 - ○点字や拡大文字、音声読み上げ機能を使用して学習する児童生徒等のために、授業で使用する教科書や資料、問題文を点訳又は拡大したものやテキストデータを事前に渡すこと。
 - ○読み・書き等に困難のある児童生徒等のために、授業や試験でのタブレット端末等のICT機器使用を許可したり、筆記に代えて口頭試問による学習評価を行ったりすること。

Eligibility Assessment by Standardized Reading & Writing Tests

配慮の適格性判断に活かすアセスメント

読み書きのアセスメントの必要性

- 「読み書き障害＝全く読み書きができない」ではなく、「読み書きを正確かつ流ちょうに行うことができない」状態のことです。知的な障害とは異なるため、文章の意味を理解できないわけではありません。
- 「文字を見て認識することは難しいが、音を聞いて意味を理解することはできる」、「文字を拡大したり、行間を広げたりといった調整で意味の理解が助けられる」という児童生徒も少なくありません。
- では、どのようにしてそうした読み書き困難を見つけ出すか？学校でよく行われるWISC(知能検査)では、読み書きの能力を測ることができません。そこで、適切な読み書きのアセスメントを行う必要があります。
- アセスメントは、音声教材支援を、ためらいなく行う・認めることができる根拠にもなります。この講義では、教室で有資格者でなくても簡単に実施することができるアセスメントのいくつかを紹介します。

読み書きの困難

- **読むことが遅いと？**
 - 理解が不十分なままに教科書の学習が進んでいく可能性
 - テストの問題文を読むことに時間がかかり、理解できていても解答できていない可能性
- **書くことが遅いと？**
 - 黒板をノートに全部写す前に消されてしまったり、書くことに極端な苦痛を感じていることも
 - 試験の途中で時間切れになってしまうことも
- **その結果として？**
 - 理解できており、書きたいことはあるが、表現ができない、評価されない状態に
 - 学習が遅れたり、意欲をなくしてしまっている可能性
- **読み書きの速度や正確性を確認する**
 - 学年ごとの平均値と比べ、個々の児童生徒の読み書き困難の状態を客観的に把握しましょう。
 - 極端に読み書きの困難がある場合、「自分の目で文章を読む」、「鉛筆を使って文字を書く」以外の別の方法を使うことを考慮しましょう。

1. STRAW(ストロウ)

小学生の読み書きスクリーニング検査

<http://www.saccess55.co.jp/kobetu/detail/straw.html>



【検査内容】

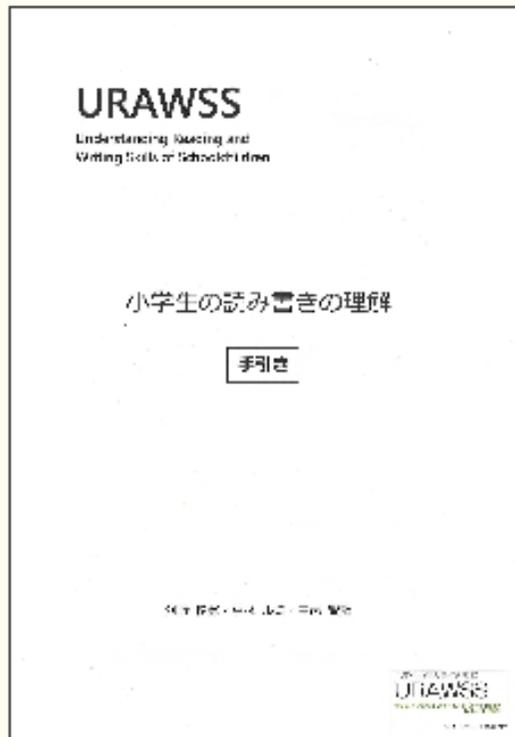
- 文字の読み書きの正確性を調べる検査です。
- 正確性を学年平均と比べることができます。

【課題実施内容】

- 1文字または単語を書き取る課題があります。
- 1文字は、ひらがな、カタカナを、単語はひらがな、カタカナ、漢字を読み書きします(各20問)。

2. URAWSS (ウラウス)

Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren



【評価内容】

- 読み書きの速度を評価することができます。
- 速度を学年平均と比べることができます。

【課題実施内容】

- 「書き課題」と「読み課題」があります。書き課題は、文章を3分間視写し、1分間あたりの書き速度を算出します。
- 読み課題は、文章を一定時間黙読し、次のページに書かれている内容理解を問う問題に○×で解答します。
- その後、1分間あたりの読み速度を算出し、また内容理解の正答数を出します。

発展：URAWSSをICT利用の効果判断に活用

書き課題：手書き → 「ワープロ」で行うと？

読み課題：自力読み → 「代読」で行うと？

※読み書きの方法が変わると遂行成績がどう変わるかを確認し、ICTによる代替の効果を測る

3. 標準読書力診断テスト

【評価内容】

- 文章理解の「正確性」を評価することができます。理解度を学年平均と比べることができます。(ただし、この検査のみすでに絶版ですので、利用に関心のある方は東大先端研人間支援工学分野までお問い合わせください)

【課題実施内容】

- 短文を読み、その意味内容に合う正しい絵に○や×をつけたり、絵を線で結んだりする課題です。東大先端研では、このテスト中の、同じ形式と難易度の2つのテスト(内容が少し異なる)を、普段通り自分で解く条件と、検査者が横で読み上げた音声を聞いて解く条件とに分けて、正答数と時間を比較し、読み上げの補助が有効かどうかを検討しています。

4. その他のアセスメント

以下は有資格者(心理士など)による実施が必要となることが多いアセスメントですが、参考となる情報を示しておきます。

1. K-ABC II

- 認知尺度と習得尺度の2つの尺度からなる検査。認知面での障害や得意な部分の状況と、学力の習得の状況の両方の側面を、同時に調べて比較することができます。小学生から高校生程度までを対象にすることができます。

2. 多層指導モデルMIM

- 読みのアセスメント(読むことのどのような部分につまづきがあるか)と読みの指導をパッケージにしたものです。初期の読みのアセスメントと指導を対象にしているものです。

3. 特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン

- 読み書きの困難に関するチェックリストがあり、児童生徒の読み書きのどのようなポイントに着目すべきかが示されています。

4. REYの複雑図形

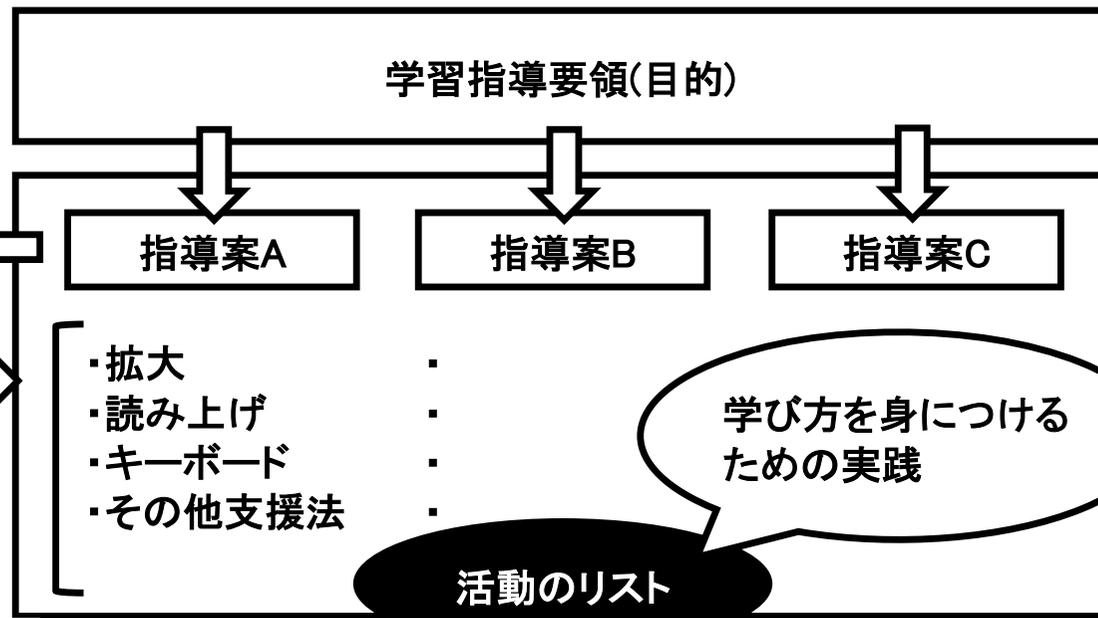
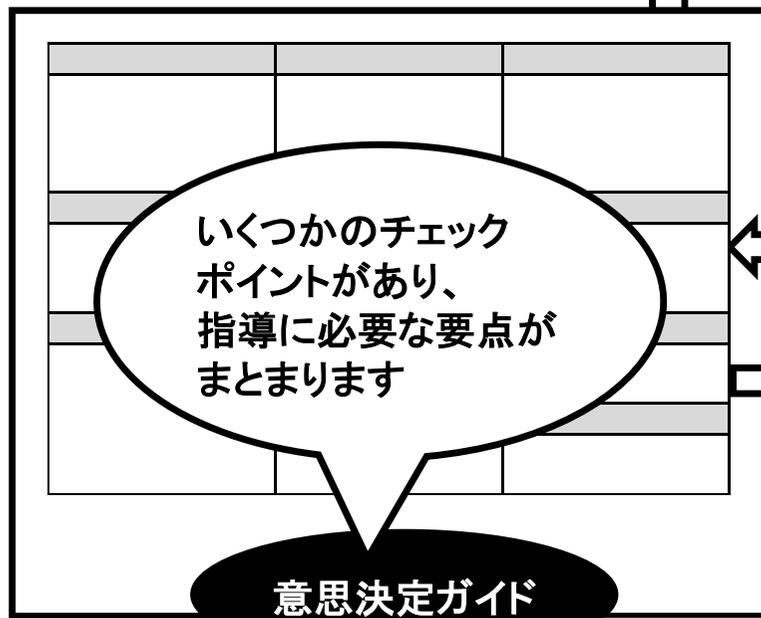
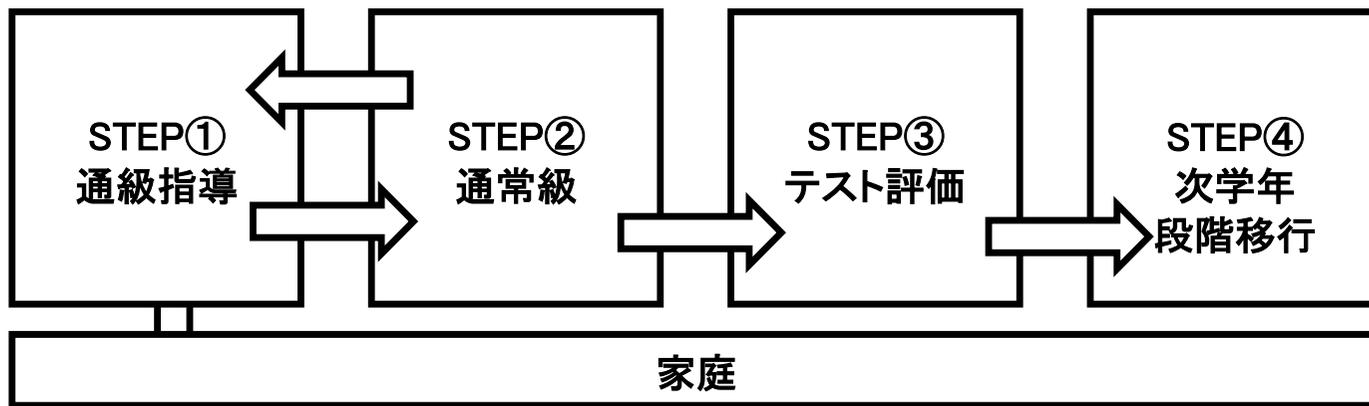
- 複雑な図形を視写する、直後再生する、遅延再生することで、複雑な形状の知覚、部分と全体の認知、記憶定着などの状態を査定するために実施します。

Framework for Ensuring Students' Learning

学びを保障する実践フレームワーク

ケースごとに最も
質の高い教育機
会参加を目指す

移行ステップ



読み困難についての意思決定ガイド

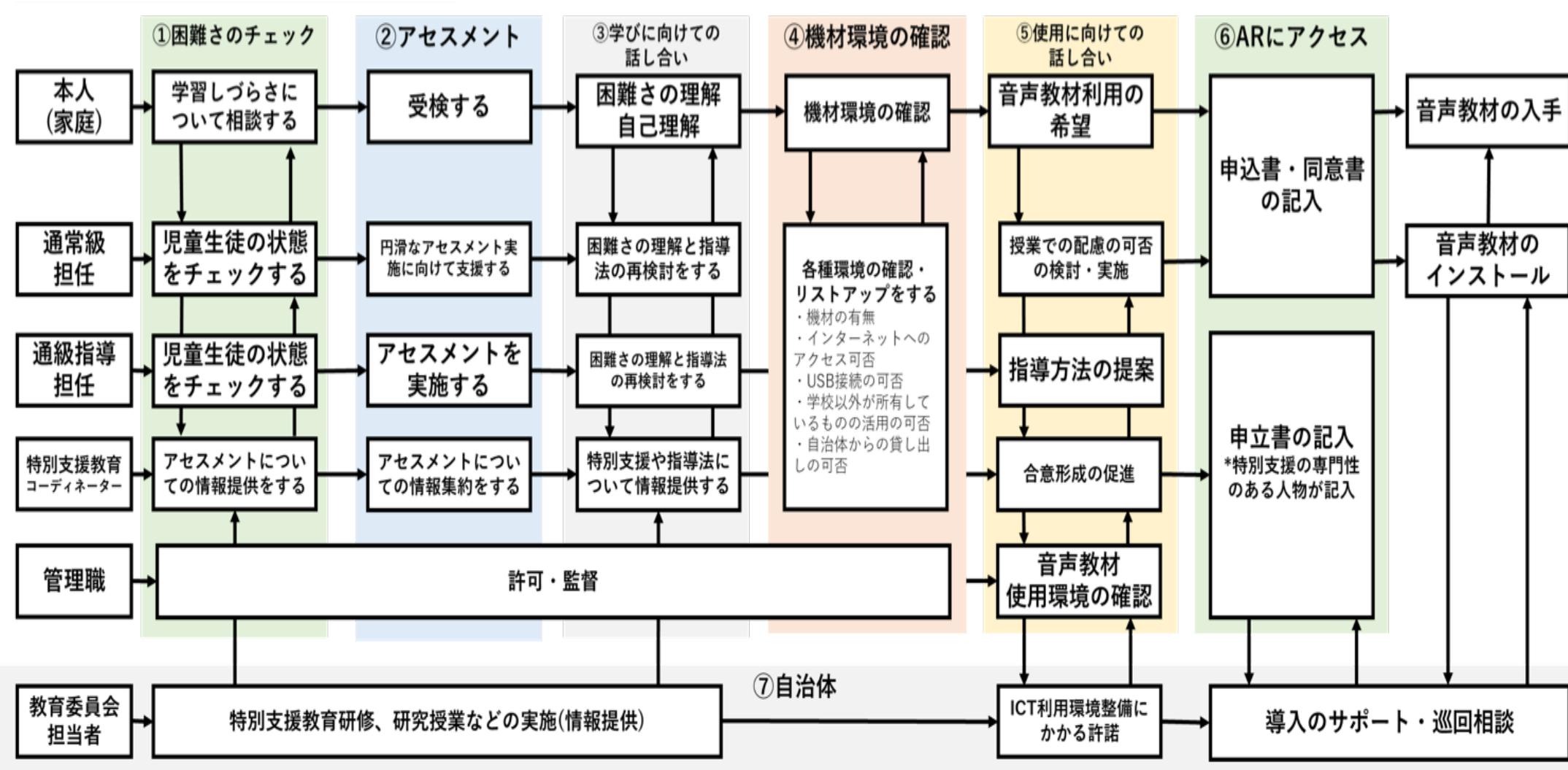
児童生徒の氏名: _____

日付: _____

チーム参加者: _____

児童生徒の能力と困難さ	環境	課題
<p>児童生徒の読みの困難さについて、以下の点をチェックしましょう(別紙1 参照)。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体能力 ・ コミュニケーション能力 ・ 視機能 ・ 言葉の知識や話し言葉を理解する能力 ・ 音素認識能力 ・ 視覚による言葉の認識能力 ・ WISC-IV、URAWSS などのアセスメント 結果 ・ その他 	<p>児童生徒の読み環境についてチェックしてみましょう。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒と印刷物との距離 ・ 読み学習の際の教室の人数 ・ 印刷物の視覚的な煩雑さ(レイアウト がバラバラ等) ・ 教室の照明 ・ 使用しているパソコンの OS ・ 現在または過去に利用した支援技術 ・ その他 	<p>児童生徒にどのような課題を行いますか？ (読む内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常級のカリキュラム ・ 通級のカリキュラム ・ 地域で作られている 資料集 ・ ワークシート ・ テスト ・ 余暇活動に関するもの ・ コンピューターの利用 ・ その他
読むことについての感覚		課題内容を明確にする
<p>児童生徒は読みについて環境からどのような影響を受けていますか？ 本人の知覚(視覚、聴覚、触覚)と環境の面からチェックしましょう。</p>		<p>児童生徒が行う 課題を明確にしましょう。</p>
解決案の考案	解決策の選択	実行計画
<p>話し合いを通して、色々な解決策のアイデアを出してみましょう。</p> <p>※読むことの AT 適用の流れ</p>	<p>考案した解決策を議論して、児童生徒に適切な解決策を選択しましょう。</p>	<p>ICT を試す／必要な支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試してみたことの効果を明らかにするために読む活動の目的をはっきりさせる ・ 必要となった練習を試してみる ・ 実践の日時や期間を決める ・ 担当者を決める
		フォローアップ
		<p>実行計画の効果を振り返る必要があります。 いつ誰が行うか、すぐに日時を設定しましょう。</p>

※参考: WATI Assistive Technology Decision Making Guide



音声教材／アクセシブルなデジタル教科書が児童生徒に届くまで
(近藤武夫：東大先端研，2018)